

毎年11月第3木曜日（今年は11月17日）は、国連が定めた「世界哲学の日」です。今、哲学しよう !!

開倫塾

塾長 林明夫

Q : 「世界哲学の日」というのがあるようですね。

A : (1) はい。日本ではあまり知られていませんが、国際連合は、毎年 11 月第 3 木曜日（今年は 11 月 17 日）を「ユネスコ世界哲学の日 (UNESCO WORLD PHILOSOPHY DAY)」と定めています。

(2) 「ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）」では「哲学なくして、ユネスコなし」を合言葉に、「世界哲学の日」を中心に世界各地で様々な活動をしています。

(3) 毎年 11 月第 3 木曜日は、「ボージョレヌーボー」の解禁日としては知られていますが、「世界哲学の日」であることはあまり知られていないようです。

Q : 日本でも「世界哲学の日」の活動はあるのですか。

A : (1) 残念ながら、あまり顕著な動きはないようです。細々とですが、開倫ユネスコ協会では、2008 年から、ほぼ毎年、11 月第 3 木曜日に「ユネスコ世界哲学の日」記念講演会を開催。「価値・意味・秩序—今、哲学しよう !! —」が基本テーマ。ものごとを行う際には、取り組むべきものごとの「価値」、大切さをしっかり認識。そのうえで、自分なりの「意味」を考え、「意味付ける」。何をし、何をしないかを自分の力でよく考え、「自己決定」。志を高く持ち、自分で決めたルールに基づき自律的に行動する（これが「秩序」）。これが、「今、哲学しよう !!」ではないかと考えます。

(2) 今年は、11 月第 3 木曜日、11 月 17 日の正午から 2 時間、「パーティ とちぎ男女共同参画センター」会議室で開催。「親と教師のための思春期のメンタルヘルス」の第一人者、神野美智男先生をお招きして、記念講演会を開催の予定。

○ご参加希望の方は、開倫ユネスコ協会（0284 - 72 - 5945）事務局までご連絡ください。オンラインでもご参加できます。

(3) ちなみに、開倫ユネスコ協会は、2001 年 1 月に、「人間の安全保障 (Human Security) の推進—保護と能力開発 (Protect and Empowerment)—」を基本理念に、開倫塾の教職員を中心に地域の皆様とともに設立したユネスコ協会です。おかげさまで、今年で設立 21 周年です。

Q : 学習塾・予備校・私立学校の経営幹部の先生方にお伝えしたいことは何ですか。

A : (1) 毎年 11 月第 3 木曜日（今年は 11 月 17 日）には、ボージョレヌーボーを楽しみながら、「今、哲学しよう !!」を先生方の教育の場で実行していただきたい。

(2) 「リベラルアーツ」の大切さが叫ばれ続けていますが、日本の教育で一番欠けているの

は「読書教育」と「哲学教育」です。特に、「哲学教育」は、哲学の基礎である思想史を学ぶ「高校倫理」の履修者が激減。大学の一般教養で「倫理」や「哲学」を履修する学生は極めて少ないので、「哲学教育」は日本ではあまり行われていないといえます。

(3) 「哲学教育」が盛んなのはフランスです。フランスでは、中等教育（中学校・高等学校での教育を合わせて中等教育と呼びます）の総仕上げとして、高校 3 年時に必須教科として「哲学」を毎週 4 時間学びます。さらに、「人文学、文学、哲学」という授業を選択した生徒は、高校 2 年生で 4 時間、高校 3 年生で 6 時間、哲学に関する内容を学びます。そして、毎年 6 月中旬に、フランスではバカロレア試験（中等教育修了試験、つまり、高卒資格試験で、大学入学資格試験もかねる試験）があり、大学など高等教育進学者の多くが受験する「普通バカロレア」の試験では、第 1 日目に、文系・理系の進学者とも 4 時間の「哲学」の小論文と説明の筆記試験が課されます。（以上、坂本尚志著「バカロレアの哲学」24～31 ページより引用）

(4) このような状況のもと、日本の「哲学教育」に期待するのは、高校で必修となった「探究学習」と「公共」の時間です。「探究学習」と「公共」の授業の前提として、ぜひ、「哲学教育」を少しずつでも行っていただきたく希望します。

(5) ①また、「哲学教育」の前提は、ことばの意味をしっかりと「定義」することと考えます。

「辞書」の活用も、高 3 までしっかりご指導いただきたく思います。

②今社会で起きていることを自分の力で考える「批判的思考(クリティカルシンキング)能力」を育成するには、新聞を毎日読むことが重要です。

③また、思慮深さ、省察力、自省心を育てるには、じっくり腰を据えた読書で「作者との時空を超えた対話」を行うことが役立ちます。

④ぜひ、「哲学教育」の前提として、「辞書・新聞・読書」に親しみ、「学習習慣」の一部にする教育をお願いしたく存じます。

(6) 幼稚園児への哲学教育をテーマにしたフランス映画「小さな哲学者たち」を、塾生・保護者・地域社会の皆様、先生方と一緒に DVD で鑑賞なさることもおすすめです。

**Q：最後に一言どうぞ。**

A：まことに僭越ですが、今月も、先生方がお読みになれば必ずお役に立つ本を、何冊かご紹介させていただきます。

(1) 1 冊目は、坂本尚志著「バカロレアの哲学」日本実業出版 2022 年 2 月 1 日刊です。自ら考え、書くことの大切さがよくわかります。さらに掘り下げたものとして、細尾萌子・夏目達也・大場淳編著「フランスのバカロレアにみる、論述型大学入試に向けた思考力・表現力の育成」ミネルヴァ書房 2020 年 12 月 10 日刊が素晴らしい作品として超おすすめです。この 2 冊を読めば、日本の高校で導入された「探究学習」と「公共」の真の狙いがわかります。

(2) 2 冊目は、安倍首相の外交スピーチライターを 8 年間務めた、谷口智彦著「安倍総理のスピーチ」文春新書、文芸春秋、2022 年 9 月 20 日刊です。安倍首相の米国議会での歴史的な名演説は、19 回の書き直しと、1 か月間、毎日何時間も明恵夫人の前で安倍首相が英文原稿を心をこめて読む練習をした成果の賜物でした。「原稿を練りに練り完成」、「心をこめて読む練習」を繰り返すことが、聴く人の感動を呼び、国の在り方、国と国の在り方も変えていく。ぜひ、ご

一読ください。

○これから行われるすべての「入学試験」「採用試験」の「面接試験」の準備として最も重要なことは、「志望理由書」の原稿を練りに練って書き上げて提出することが第一。自分で書いた「志望理由書」を「心をこめて読む練習」を繰り返し、繰り返し行うことが第二。

○「心をこめて読む練習」を繰り返す。これはすべてのあいさつ、発表、報告に当てはまる「大原則」と確信します。

(3) 3冊目は、辰濃和男著「文章のみがき方」岩波新書、岩波書店 2007 年 10 月 19 日刊です。名著といわれた同著「文章の書き方」の続編。より具体的ですので、作文や論文指導に最適。中学生や高校生にもぜひおすすめください。

(4) 4冊目は、岩尾俊兵著「日本“式”経営の逆襲」日本経済新聞 2021 年 10 月 19 日刊です。同著「イノベーションを生む“改善”、自動車工場の改善活動と全社の組織設計」有斐閣 2019 年 12 月 24 日刊の続きで、改善をイノベーションにつなぐ努力が必要であることを強調。極めて示唆に富みます。

○ 2023 年は、アダム・スミス生誕 300 年の記念すべき年です。「法学講義」「道徳感情論」「諸国民の富」の 3 冊を、これから 1 年かけてじっくり読み、これからの社会の在り方を考えましょう。

2022 年 10 月 10 日 (月)